

## 令和2年度 第5回名桜大学FD研修会：総評

坪井 祐司

令和2年度第5回名桜大学FD研修会は、令和3年1月29日にオンライン（Teams）により開催された。「ICTを活用した授業及びアカデミックアドバイザーの現状について」と題して、遠隔やハイブリッドの授業が増加したことで授業や学生指導にどのような変化や課題が生じたかをテーマにとりあげた。参加者の総計は67名であった。

研修会は分科会形式をとり、参加者による議論およびアクティブラーニングを主体として行われた。4つの分科会が準備され、出席者は関心に応じてそのいずれかに参加した。分科会において各参加者が自ら経験した課題や実践を出し合い、その後全体の中で各分科会の議論の内容について代表者が発表し、共有するという流れで行われた。

分科会のテーマ及び担当したFD委員は下記のとおりである。

- ・分科会A「講義に関すること」  
ファシリテーター：小嶋委員、小西委員
- ・分科会B「実技・演習系の授業に関すること」  
ファシリテーター：田場委員、山本委員
- ・分科会C「質保証と評価方法について」  
ファシリテーター：小番委員、坪井委員
- ・分科会D「ICTを活用したオフィスアワーについて」  
ファシリテーター：卯田委員、鶴巻委員

分科会Aは講義について、分科会Bは演習・実習について、それぞれ遠隔授業において生じた課題やなされた実践が話し合われた。分科会Cでは遠隔授業における授業の質の確保と公平な評価の方法について、分科会Dでは授業以外の学生指導のあり方を主題として議論された。各分科会の発表からは、遠隔授業では課題が増えて学生・教員双方の負担が増加する一方で、対面よりも双方向性を高める工夫の余地があることが感じられた。学生との距離についても、直接のコミュニケーションが難しい反面、連絡を取りやすいと感じる学生もおり、ツールの使用法によっては円滑さも確保しうる。そうしたさまざまな教員による工夫や実践が共有された。

教員同士が相互に経験や方法論を披露しあう形の研修会が開催されたのは、昨年に引き続いてとなった。学部組織や専門分野が異なる他の教員がどのような授業や学生指導を行っているかを知る機会は少ないため、貴重な機会となったと思われる。事後のアンケートでも回答者の過半数が満足度の5段階評価で「5」と回答しており、有意義と感じる参加者が多かったことがうかがえる。